

「総合的な探究の時間」に関する状況調査 (2024年)

調査結果

神奈川県立総合教育センター

桐蔭横浜大学

調査方法

インターネット調査：各学校が Google フォームにて回答

調査期間

2024年9月4日～2024年9月30日

回収状況

神奈川県立高校（特別支援学校を除く）

155校/155校（100%）

1. 調査回答者、学校の属性に関する項目

課程

全日	110
全日単位	22
全日単位・	1
全日単位・全日	1
通信単位	2
定時	8
定時単位	11
総計	155

学科

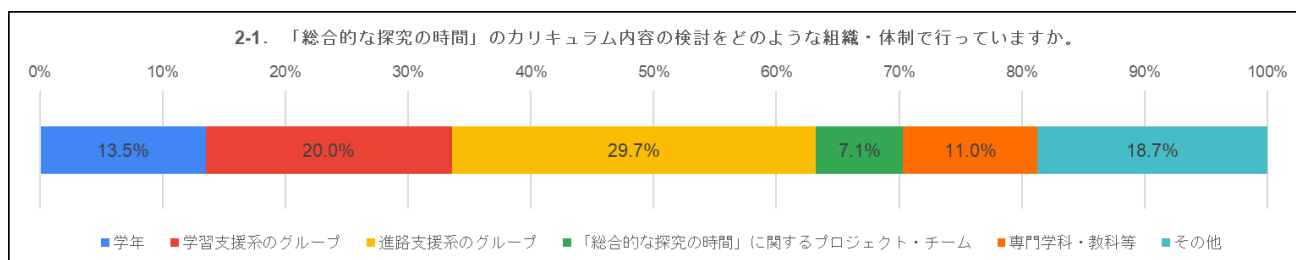
普通	116
普通複合	10
専門	16
総合	12
国際	1
総計	155

大学進学率

70%以上	60
70%未満40%以上	43
40%未満	52
総計	155

2. 「総合的な探究の時間」を推進する校内体制・組織に関する質問

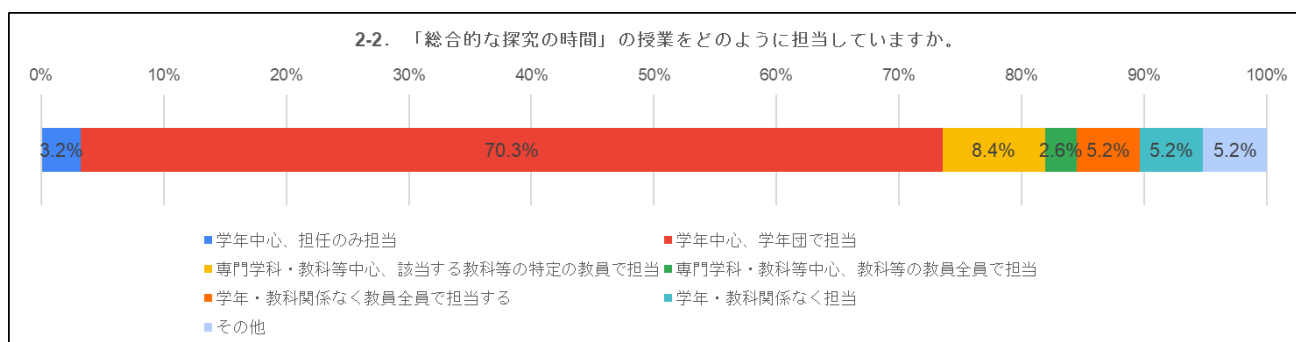
2-1. 「総合的な探究の時間」のカリキュラム内容の検討をどのような組織・体制で行っていますか。



【その他】

探究系のグループ／探究推進グループ／研究開発グループ／研究開発グループという、情報管理系と学校広報系／研究開発グループ（教育課程担当）／研究系のグループ／開発推進系グループ／研究グループ／リサーチグループ（総合的な探究の時間のカリキュラム内容の検討他、リベラルアーツ的な学習行事等を担当）／調査研究グループ／各学科と進路グループ／教育課程に関する業務を所掌するグループ／業務の企画開発を提案するグループ／開発・広報系のグループ／広報・創発グループ／広報連携グループ／研究広報グループ／情報系のグループ／SSH 事業推進に係るグループ／SSH に関する組織（SSH 学年会および SSH 推進所轄グループ）／グローバル教育推進グループ／国際教育・研究グループ校務グループである SSH 推進グループ／進路支援系のグループで大枠を考え、細部は学年で検討／学年の担当者が進路支援系のグループと連携しながら行っている／年次を中心とした科目担当者／総合推進グループ（研究開発系のグループ）／学習でも進路でもない分掌に含まれている

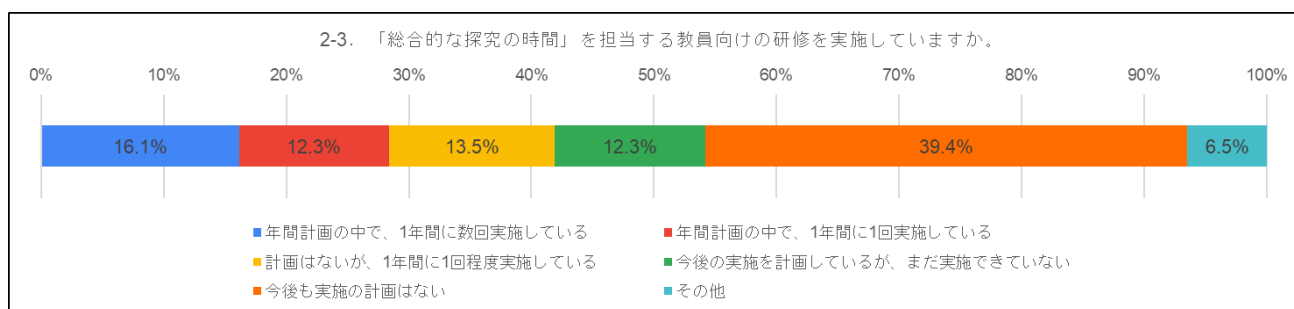
2-2. 「総合的な探究の時間」の授業をどのように担当していますか。



【その他】

- ・ 1・3年次は「学年中心、学年団で担当」、2年次は「学年・教科関係なく担当」（2件）
- ・ グループが中心となって運営し、担任のみが担当する
- ・ 学年の担任・副担任に加えて学年外の理科・情報の職員で担当する

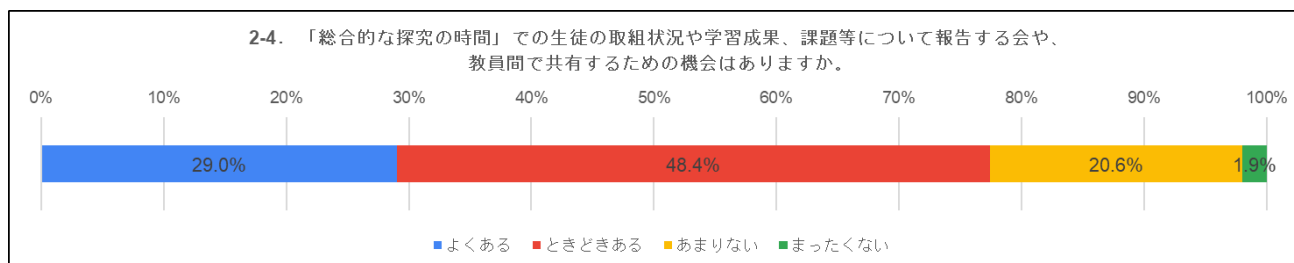
2-3. 「総合的な探究の時間」を担当する教員向けの研修を実施していますか。



【その他】

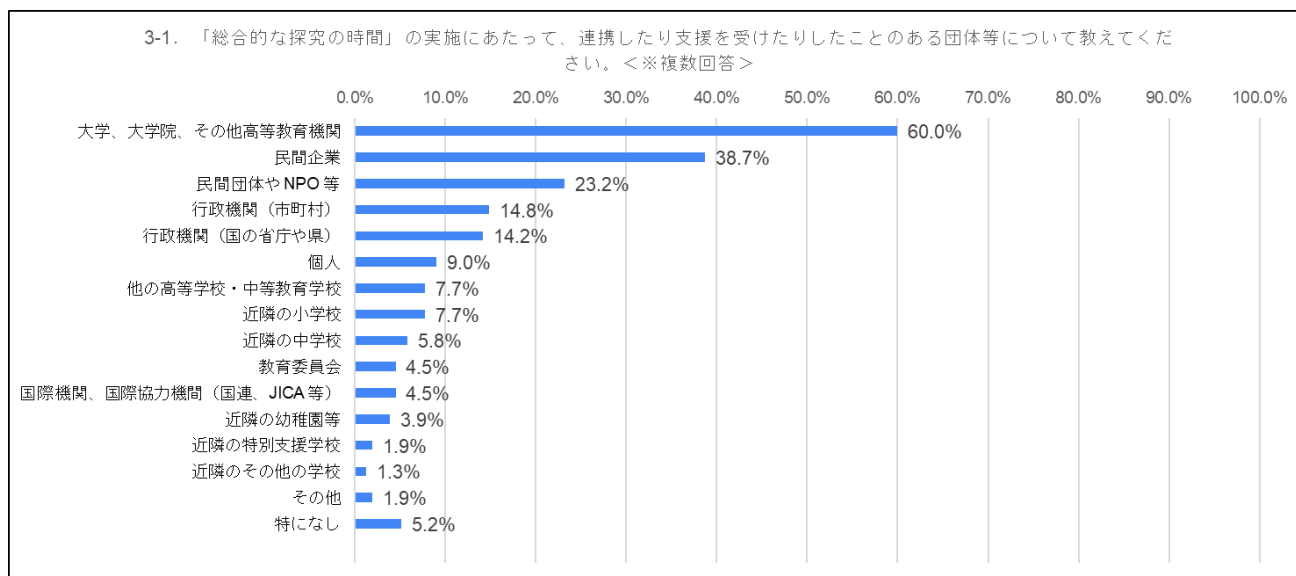
- ・ 毎週行っている
- ・ 年次会や朝の打合せ等で共有している
- ・ 学年会で共有
- ・ 計画はないが、学期ごとに実施している。
- ・ 授業改善に係る職員研修で、ICTの活用やファシリテーションに関する内容の研修を行っている
- ・ 研修というかたちでは行っていないが、必要に応じて情動的提供、情報共有を適宜行っている
- ・ 担当者会議を実施している
- ・ 校内授業研究テーマにも関わることなので、折を見て探究活動に関する話題提供をしている

2-4. 「総合的な探究の時間」での生徒の取組状況や学習成果、課題等について報告する会や、教員間で共有するための機会がありますか。



3. 「総合的な探究の時間」を推進するための外部との連携に関する質問

3-1. 「総合的な探究の時間」の実施にあたって、連携したり支援を受けたりしたことのある団体等について教えてください。＜※複数回答＞



【その他】

近隣の住民／病院等／市立博物館

3-2. 上記の質問で上げた団体等との連携や受けた支援の内容について具体的に教えてください。

【自由記述・まとめ】

◎大学との連携

- ・ 大学と共同で、SDGsに関する授業や講演会を実施。
- ・ 大学教授や学生による体験授業、出張講義を通じて専門的な知識や指導を受けている。

◎民間企業との協力

- ・ SDGsやキャリア教育に関連する講演会を民間企業に依頼。
- ・ 地元企業へのインタビューや実地調査を行い、企業の課題解決に向けた探究活動を展開。

◎地域団体との連携

- ・ 市役所や町役場との協働で、地域の社会課題に関する学びを深める。

◎実地調査や体験学習

- ・ 企業訪問やフィールドワークを通じて、実社会の問題に直面しながら学びを進めている。
- ・ 講演会やワークショップを通じて、職業や社会問題についての理解を深める機会を提供。

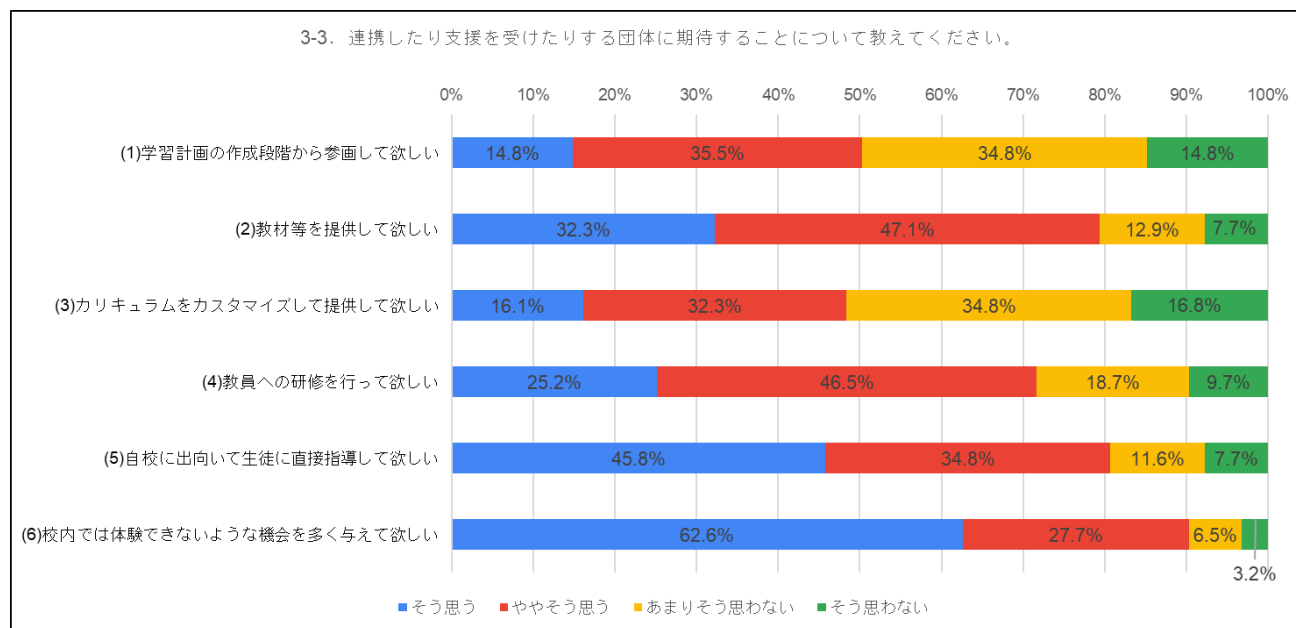
◎講演・ワークショップの実施

- ・ さまざまな分野の専門家を招いた講演会やワークショップが定期的に行われている。
- ・ 学生の研究テーマに対する助言や技術指導も多くの団体から受けている。

◎進路に関するサポート

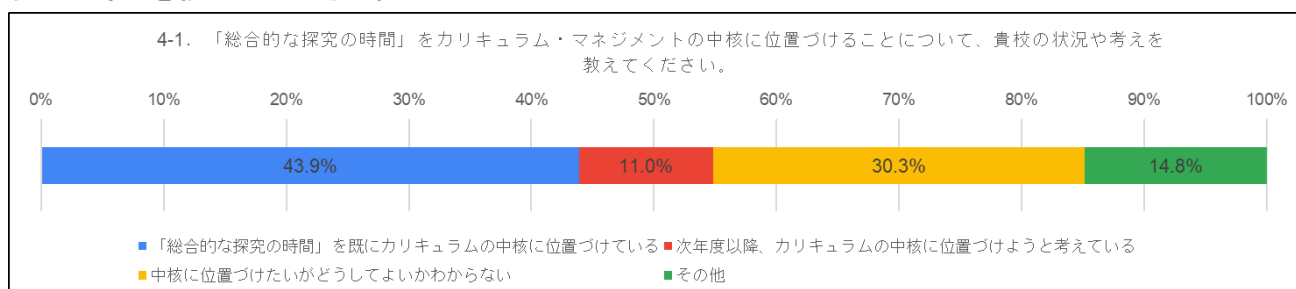
- ・ 進路ガイダンスや社会人講話を通じて、学生の進路決定を支援する取り組み。
- ・ 大学や企業からの講演を通じて、キャリアに対する理解を深める。

3-3. 連携したり支援を受けたりする団体に期待することについて教えてください。



4. 「総合的な探究の時間」のカリキュラム・評価に関する質問

4-1. 「総合的な探究の時間」をカリキュラム・マネジメントの中核に位置づけることについて、貴校の状況や考えを教えてください。



【その他】

◎「課題研究」が代替としての役割を果たしている

- ・ 課題研究で代替しており、各自の研究となっている
- ・ 課題研究が代替になっているので教科科目扱い
- ・ 中核ではなく、習得した技術と知識を生かす「集大成」の位置づけ

◎「総合的な探究の時間」を中核に位置づけたいが、実現が難しい・課題がある

- ・ 学習の中核として認知してほしいが曖昧である
- ・ カリキュラムの中核にある「課題研究」を行っているので「総合的な探究の時間」とのバランスが難しい。探究活動として「総合的な探究の時間」と「課題研究」は似ているため、本校ではテーマを与えて探究活動をする「総合的な探究の時間」と、自らが課題を見つけて解決する方法を探究する「課題研究」として科目を置いている。そして、専門高校の性格として「課題研究」を中核にしいる。
- ・ 重要と捉えており、力をいれているが、カリキュラム・マネジメントの中核にはなっていない
- ・ 1学年で自己理解とキャリア教育、3年生で課題研究を通じた STEAM 教育の流れでカリキュラム上の位置付けが確立している。
- ・ 生徒の状況から難しい
- ・ 中核に位置づけることは難しい。
- ・ 生徒の状況を考えて中核に位置づけることは難しい

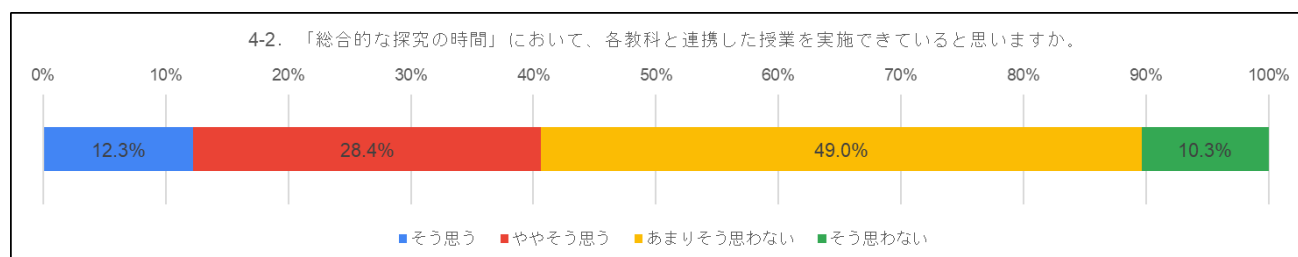
◎検討中またはまだ具体的に進んでいない

- ・ 検討中 (4 件)
- ・ 構想はあるがまだその時期に来ていない
- ・ 統合もあるので不明である
- ・ 具体的な話が進んでいない。

◎中核に位置づけることを考えていない

- ・ 現状のまま (中核に位置づけられていない) でよい
- ・ 中核に位置づけようと考えていない
- ・ 中核に位置づけたいと思わない
- ・ 検討項目としてあがっていません。
- ・ 特に考えていない
- ・ 生活習慣の確立や基礎的な学力の育成に力を入れている (2 件)

4-2. 「総合的な探究の時間」において、各教科と連携した授業を実施できていると思いますか。



4-3. 上の質問（4-2）で「そう思う」「ややそう思う」を選択した場合、その内容について具体的に書いてください。

◎各教科で探究活動・探究プロセスを取り入れている

- ・ 各教科で探究的な授業を実施し、探究との往還をめざしている
- ・ 探究的な学びの趣旨が各教科に反映する
- ・ 探究活動のプロセスを教科科目の学習活動に取り入れる
- ・ 各教科で、課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究プロセスに基づく授業を展開している
- ・ 1年次にて学んだ、探究の各過程における知識・技能を、他教科の学習において活用できるようプログラムを組んでいる
- ・ 総合的な探究の時間での学習・活動で得たことを、各教科・科目での学習で生かしている。各科目の単元に適した内容で、仮説、情報収集、整理、まとめ、表現という活動を、教科による偏りはあるが、実践するよう努めている。
- ・ 1学年の授業で使用する教材の作成を教科に依頼している
- ・ 各教科の授業において、探究のプロセスを取り入れた指導を実践することとしている。

◎教科横断・連携した探究活動を実施している

- ・ 公共において日経 STOCK リーグに4年次が全員参加。調査、フィールドワーク、チームでの活動、プレゼン、レポート作成など探究活動の基本を学ぶ。
- ・ 各生徒の科目選択や進路希望に合わせた探究活動の実施
- ・ 探究活動に関連する資質・能力を高める教科等横断的な学習として、課題発見・解決能力、プログラミング的思考力、情報活用能力などを育む授業を横断的に実施している。
- ・ 全職員で対応しているため、教科横断的に実施している。
- ・ 探究テーマが人文科学系（文系）であっても、必ず理数的な要素（データ分析等）を取り入れる など
- ・ 各教員が教科の知識を元に数種類のゼミを開設し、教科の専門性を活かした講座の運営をしている。
- ・ 各ゼミで学んでいることが違うため、学んだ内容を他教科に繋がられない生徒もいる。しかし、課題解決能力など身に付けられた力を発揮できていると思う。
- ・ 「公共」では、社会保障や契約、雇用について、「工業」では、職業人、地元企業の理解について、「家庭」では、ホームプロジェクトについて、「情報」では、ICTやPC、情報ネットワークの適切かつ効果的な活用について、「全教科」では、グループ学習や探究に繋がる学習について等、連携した授業の実施ができる。

- ・ シチズンシップ教育（公民科）
- ・ 他教科の教員が参加して指導していたり、テーマを生徒へ提案している。また、探究活動を他教科の時間で実施している。
- ・ たとえば、沖縄について地理や歴史の側面から連携
- ・ 沖縄の探究では、関連するテーマを国語や地理・歴史で扱い連携した。SDGsの探究では、関連するテーマを英語や公民で扱い連携した。論文・レポート等の書き方講座を総合的な探究の時間および国語で連携、実施することができた。
- ・ シチズンシップ教育で、公民科、家庭科、保健体育科との連携
- ・ 地理歴史科・公民科や家庭科との連携によって地域探究の学習やシチズンシップ教育などを推進している。
- ・ 公民科（公共や政治経済）では、SDGsの取り組みを実例を挙げて扱っている。また論文作成の能力向上のためにレポート試験（2000字程度）を行っている。家庭科では、企業が行っているCSR、つくる責任・つかう責任について考えるときSDGsの視点を生かしている
- ・ 国語の表現活動との連携 公民の労働教育との連携 家庭のライフステージとの連携
- ・ 各科の座学と実習の内容を活用させている。

◎SDGs・持続可能な社会をテーマにしている

- ・ 学校教育目標である「持続可能な社会の創り手としてこれからの社会で活躍できる資質・能力の育成」を目指して、3年間の体系的な総合的な探究の時間「未来共創プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を教育課程の中核に位置付けている。そして、総合的な探究の時間を各教科・科目や特別活動と関連付けるカリキュラム・マネジメントを行い、教育課程全体での資質・能力の育成を目指している。
- ・ 例えば「SDGs問題をどう深く理解し、解決策を提案できるか」を軸に、各教科での活動を想定する。外国語科であれば、世界の国々や国際社会の先進的な取り組みの情報を様々な言語媒体で集め、整理する。理数系科目なら、SDGs項目に沿った課題を生徒が設定して実験などを行い結果を発信する。文系科目であれば、歴史的な観点を持ちながら現在の社会問題・SDGs問題を分析し、最も論理的で説得力のある解決策を提案する。おおまかですが、このように各教科の特性を活かした活動が考えられるかと思います。
- ・ STEAM教育の一環で総合と胸囲化の往還を目指している。各教科での学びを総合に生かしたり、逆に総合で得たものを各教科の学びに還元することを目指している。
- ・ SDGsの取り組みについて、地歴・公民の授業内で取りあげている。また、課題解決のための思考力を養っている。
- ・ SDGsに関する探究活動における家庭・地理歴史・公民等の教科学習・文化祭等の学校行事を踏まえた活動など
- ・ 環境問題について、理科と社会科と連携して展開している。戦争について、社会科と連携している。
- ・ 世界を考えるための、国際交流及びSDGsを考え、教科横断的思考学習を展開している。

◎進路やキャリア教育に関連づけている

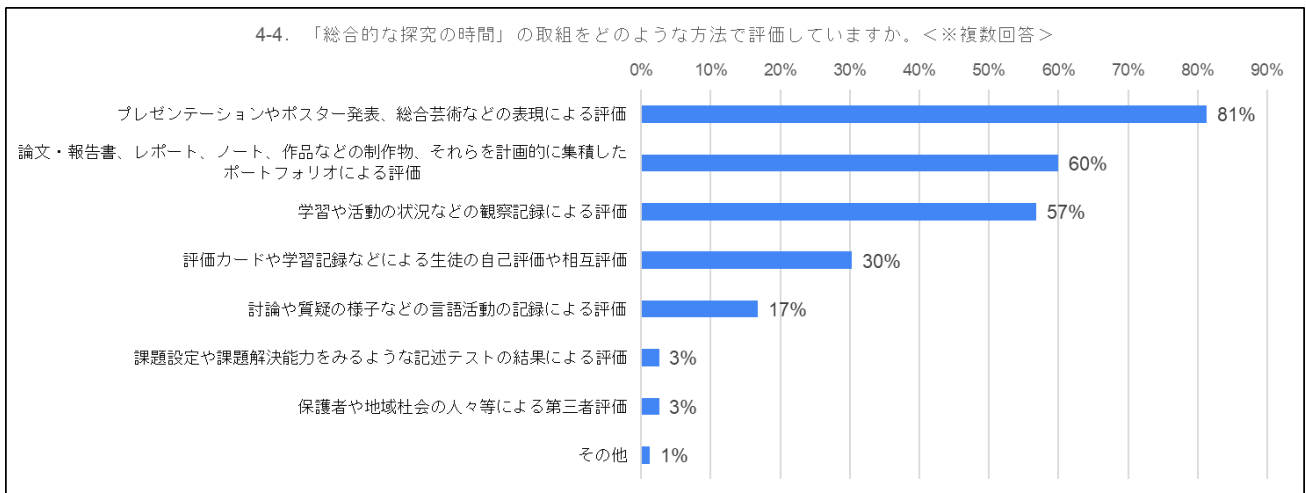
- ・ 自分らしい生き方の実現と第一志望の進路実現に向けた探究的な学びを進める中で、文書・レポート作成・発表・ディスカッション等を行っており、生徒一人ひとりの興味関心に基づいた教科横断的な学びを実施している。
- ・ ソーシャルスキルエデュケーションや国語の授業でキャリアに関するスキルを育成している。

- ・ 職業探究は、家庭基礎で職業職種について、職業選びの条件について考察、現代の国語で将来どんな職業に就きたいか、また、その理由について文章をつくった。金融について、数学科より利息の計算や考え方の指導。企業とのコラボでは、情報Ⅰで問題を抱えているターゲットをペルソナ技法で分析。家庭基礎で生活に関する問題点を解決するマンダラチャートづくり。情報Ⅰで発表スライド作成。
- ・ 生徒が探究活動のテーマを考えるときに、将来の職業に役立つ内容にして、進路実現に向けた主体的な科目選択をできるようにした。

◎課題研究・学校設定科目を通じた探究活動を行っている

- ・ 総合的な探究の時間の学びだけでは、探究活動の内容は成立しえない。他教科や学校設定科目等での学びをもとに、探究活動のテーマ設定や探究活動を実施している。
- ・ 学校設定科目（高大連携講座等）における探究学習の成果を、他教科での学習に活用しようとしている。
- ・ 学校設定科目を中心に、理科・数学・情報科の教員が連携して科学的思考力の育成や国際性の涵養を図っている。

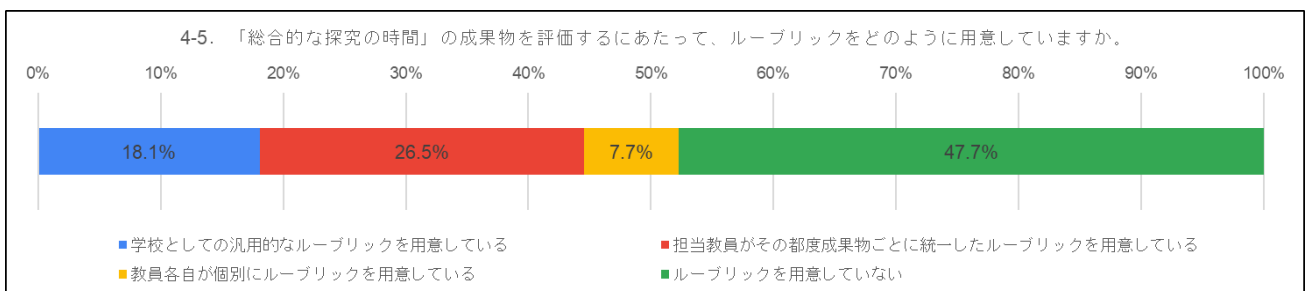
4-4. 「総合的な探究の時間」の取組をどのような方法で評価していますか。〈※複数回答〉



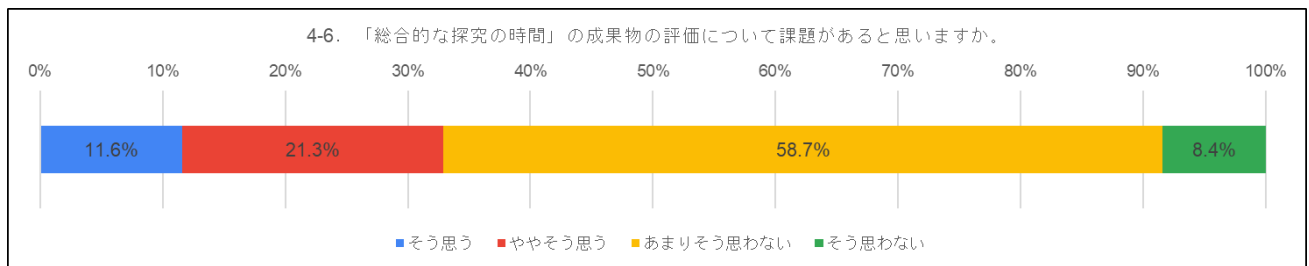
【その他】

- ・ ルーブリック評価
- ・ 出席数

4-5. 「総合的な探究の時間」の成果物を評価するにあたって、ルーブリックをどのように用意していますか。



4-6. 「総合的な探究の時間」の成果物の評価について課題があると思いますか。



4-7. 上の質問（4-6）で「そう思う」「ややそう思う」を選択した場合、その課題について具体的に書いてください。

◎評価の統一性や共通理解の難しさ

- ・ 成果物の評価の妥当性が、すべての担当教員で共通した認識で評価できているか疑問が残る。
- ・ 全ての教職員での共有、理解を図ることが難しい。
- ・ 担当する教員全員が同じ評価規準を共有しなければならないこと
- ・ 教職員間、及び、教職員と生徒間の共通理解を図ること。
- ・ 汎用なルーブリックの作成と、それをういた評価方法の校内での共有。
- ・ 統一的な評価の指標がない。
- ・ 何に取り組むべきか。評価の統一性。教員の負担（担当教科以外に準備する時間の確保）

◎ルーブリック・評価規準の作成の難しさ

- ・ 成果物の評価にかかわるルーブリックを作成する際に苦慮する
- ・ レポートの添削や評価はルーブリック評価を作成しているが、ずれが生じる。その点を会議を通じてフラットにしようと努めているが、かなりの手間がかかってしまう。
- ・ 評価規準の統一が難しい。教員が探究について理解しているかどうかで教科評価規準が変わるのではないか。
- ・ 担当者ごとに評価のばらつきが内容に規準を定めると結果として評価が同じになってしまう
- ・ 評価に課題があるというよりは評価方法がこれでよいかというところが課題かと思う
- ・ 大まかな評価規準により評価しているが、ルーブリックを作成するなど、評価の妥当性、信頼性を高める必要があると考える
- ・ 評価の基準設定があいまいである。
- ・ 評価の妥当性、指導の連続性について検討の余地がある
- ・ 数値に換算しえない部分の評価について
- ・ ルーブリックや規準がないのでまちまちになる。

◎評価の公平性・妥当性に関する問題

- ・ 生徒の相互評価の際に、客観的な視点を保たせることに課題がある。どうしても「仲の良い生徒だから」等の理由で高評価を付けてしまう生徒が出てしまう。
- ・ 公平性が難しい
- ・ 評価者の主観が出てしまう
- ・ 発表等最終的な成果の評価の比率が大きくなりやすく、評価のバランスをとることが難しい。

- ・ 生徒の文章内容について、各担任による個別評価になるので、どうしても差がでる。
- ・ 評価方法として、課題の提出回数で評価しているので、生徒の探究度合を測っているのかは大いに疑問が残ります。
- ・ 生徒の相互評価の際に、客観的な視点を保たせることに課題がある。どうしても「仲の良い生徒だから」等の理由で高評価を付けてしまう生徒が出てしまう。

◎ 成果物だけでの評価の限界

- ・ 成果物の評価だけでは、生徒の変容が見取れないことがある。また、プレゼンの得意な生徒が、薄い内容を上手に発表し良い評価を得ることもよくあるため、適切な評価基準の設定と、教員間の共通理解が必要である。
- ・ 製作したものの評価の重みが大きく、製作の過程やそれを製作するに至った経緯の思考的な評価が軽い。
- ・ 成果物の評価について、評価材料の一つに入れることは良いと思うが、探究の過程が評価できると良いと思う。ただ、その評価規準や指針（統一見解）をつくるのは、苦勞する点である。
- ・ 発表等最終的な成果の評価の比率が大きくなりやすく、評価のバランスをとることが難しい。
- ・ 評価方法として、課題の提出回数で評価しているので、生徒の探究度合を測っているのかは大いに疑問が残ります。

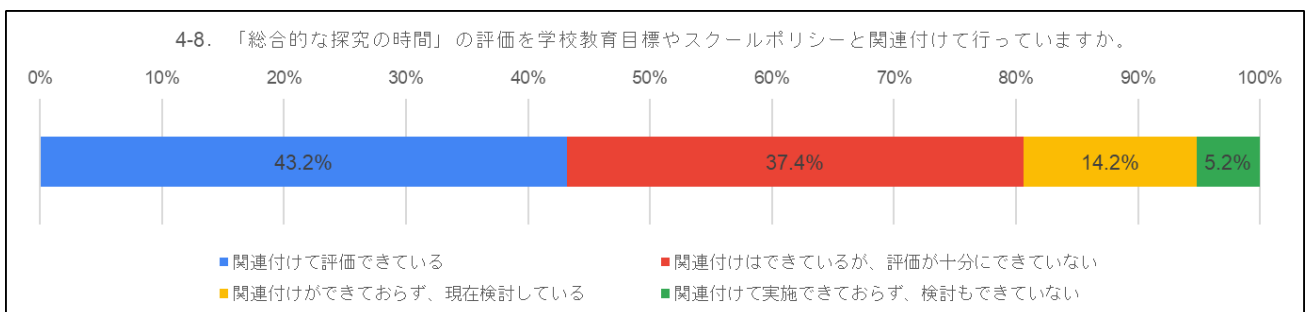
◎評価システム・評価方法の不備

- ・ 評価についてシステムが構築されていない
- ・ 評価の妥当性、指導の連続性について検討する余地がある
- ・ 探究についての知識もほとんどなく評価のしようがない人が多い。
- ・ 毎年改定されているわけではないので、実施内容と齟齬があるときがある。
- ・ 一定程度評価基準を合わせることができるとは、内容によっては教員間で基準を統一することが難しい。

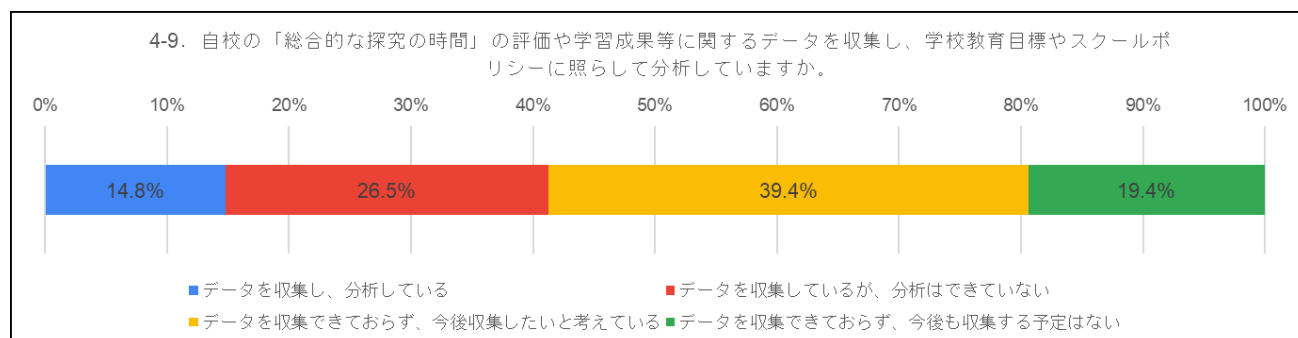
◎評価の必要性の低さ

- ・ 数値化される成績のような明確な評価ではないので、生徒もそこそこの取り組みしかしない。教員も評価の必要性を低く捉えていることが多い。
- ・ 「総合的な探究の時間」の位置づけが、あいまいで、生徒のモチベーションが上がらない。
- ・ 一定の効果があつた反面、始めから「自分はできない」という生徒に対してルーブリックを通して「できた」を体験させるのが難しかった。

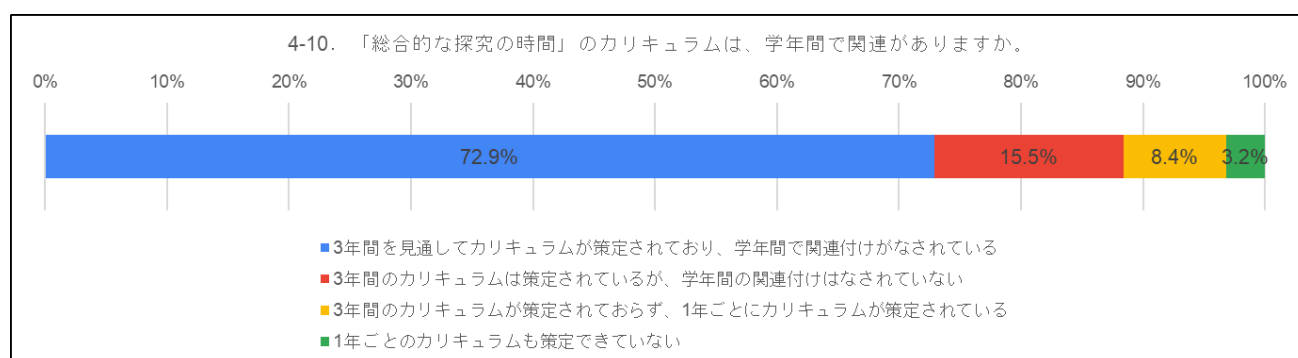
4-8. 「総合的な探究の時間」の評価を学校教育目標やスクールポリシーと関連付けて行っていますか。



4-9. 自校の「総合的な探究の時間」の評価や学習成果等に関するデータを収集し、学校教育目標やスクールポリシーに照らして分析していますか。

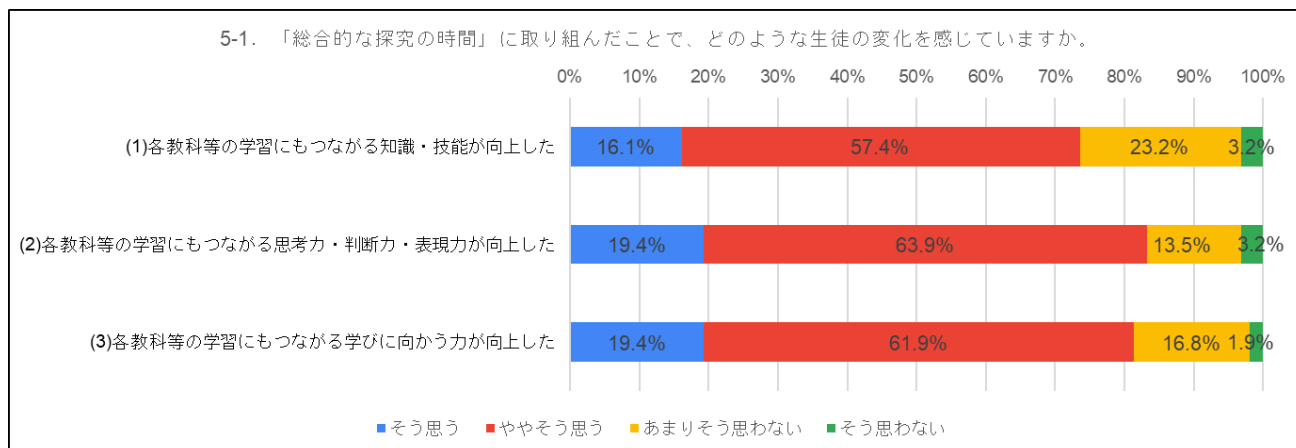


4-10. 「総合的な探究の時間」のカリキュラムは、学年間で関連がありますか。

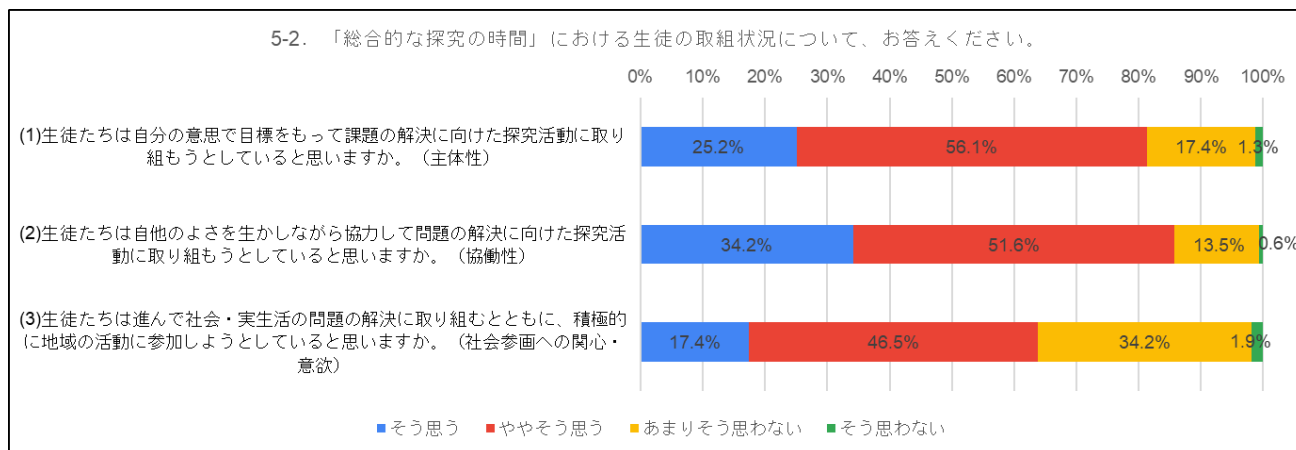


5. 「総合的な探究の時間」における生徒の変化や取組状況に関する質問

5-1. 「総合的な探究の時間」に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。



5-2. 「総合的な探究の時間」における生徒の取組状況について、お答えください。



5-3. 「総合的な探究の時間」を通して、特に生徒が身に付けたと感じる資質・能力について教えてください。

【自由記述・まとめ】

◎自己理解と表現力

- ・ 自己理解を深め、自己を表現する能力の向上がみられる。
- ・ 自分の進路や将来についての理解・計画力が育成されている。
- ・ 身近な事象から課題を発見し、これを表現・発表する力。

◎課題解決力・探究心

- ・ 社会や実生活の問題から課題を見つけ、それに対処する意欲が高まった。
- ・ 課題発見・解決能力や論理的思考力、深い学びにつながる探究心が育成された。
- ・ 探究活動を通じて、未知の問題への挑戦意欲が高まり、仮説を立て検証する力が向上した。

◎協働性・コミュニケーション力

- ・ 他者と協力し、意見を共有しながら課題解決に取り組む力が向上した。

- ・ 発表や他者と意見交換する機会を通して、プレゼンテーション能力や傾聴力、他者理解の力が育まれた。
- ・ 学校外のインタビューなどを通じて、幅広い人間関係を築く力も身に付けた。

◎情報収集・分析能力

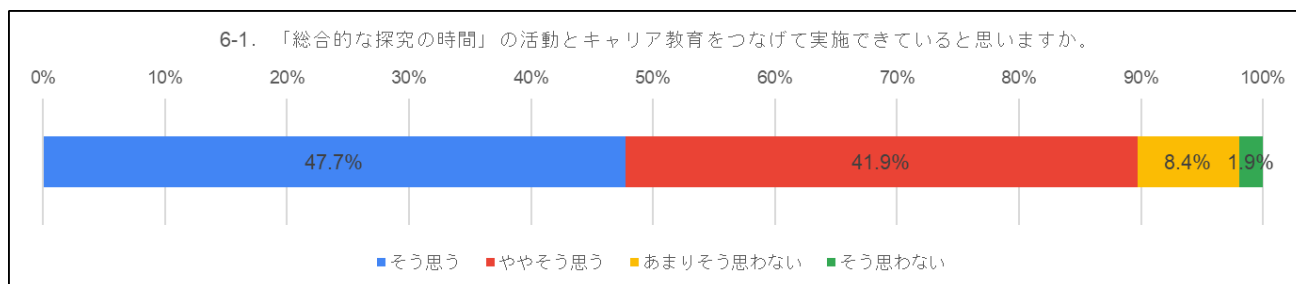
- ・ 自ら課題を見つけて情報を集め、整理・分析するスキルが向上した。
- ・ 情報収集力、分析力、ICT 活用能力など、総合的な情報活用能力が発展した。

◎主体性・持続可能な社会形成の意識

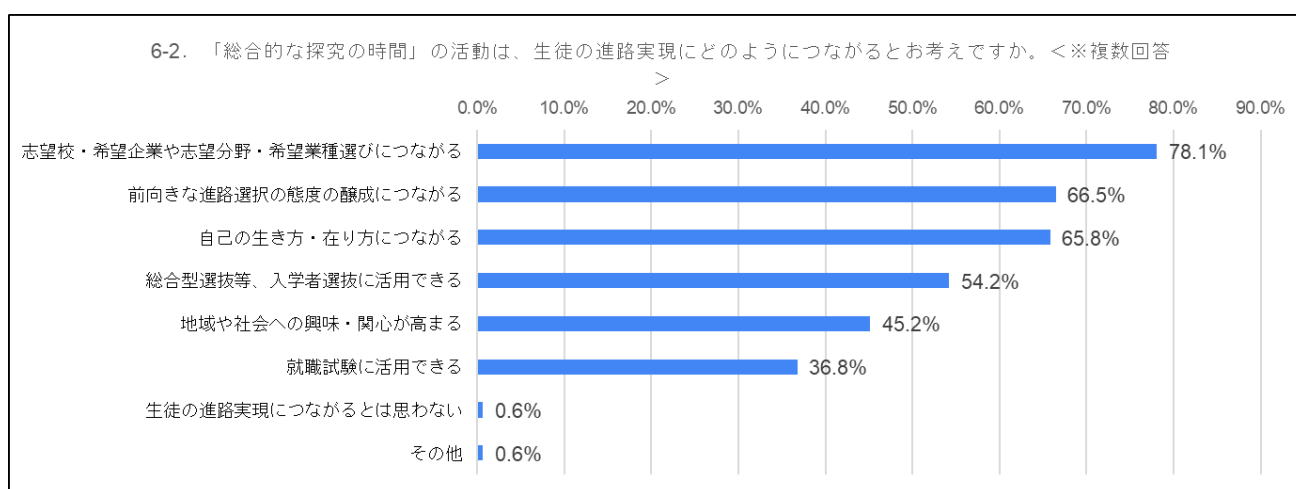
- ・ 社会や地域との関わりを通じ、持続可能な社会づくりや公民としての自覚が強まった。
- ・ 自主的に活動する主体性が育ち、探究心とともに行動する態度が育成された。

6. 「総合的な探究の時間」と進路指導・キャリア教育との連携に関する質問

6-1. 「総合的な探究の時間」の活動とキャリア教育をつなげて実施できていると思いますか。



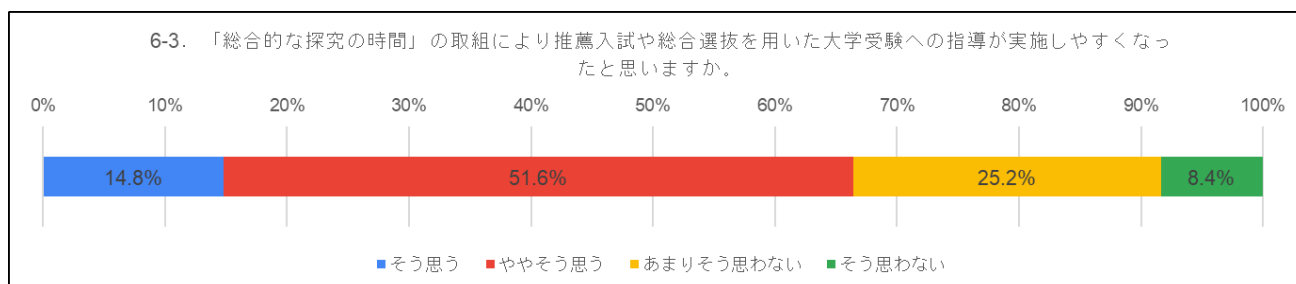
6-2. 「総合的な探究の時間」の活動は、生徒の進路実現にどのようにつながるとお考えですか。＜※複数回答＞



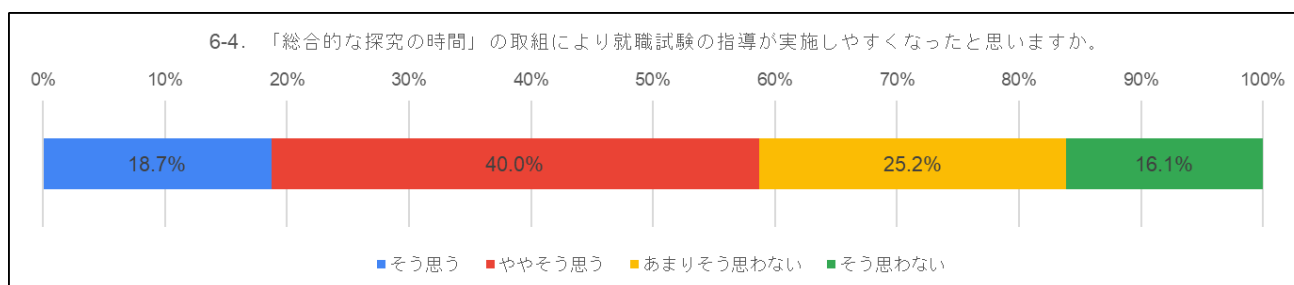
【その他】

- ・ そもそも進路につなげることを一切考えていない

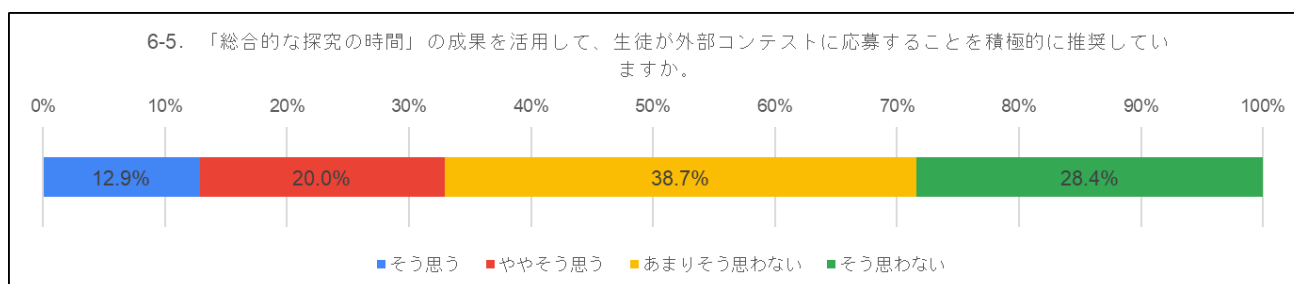
6-3. 「総合的な探究の時間」の取組により推薦入試や総合選抜を用いた大学受験への指導が実施しやすくなったと思いますか。



6-4. 「総合的な探究の時間」の取組により就職試験の指導が実施しやすくなったと思いますか。

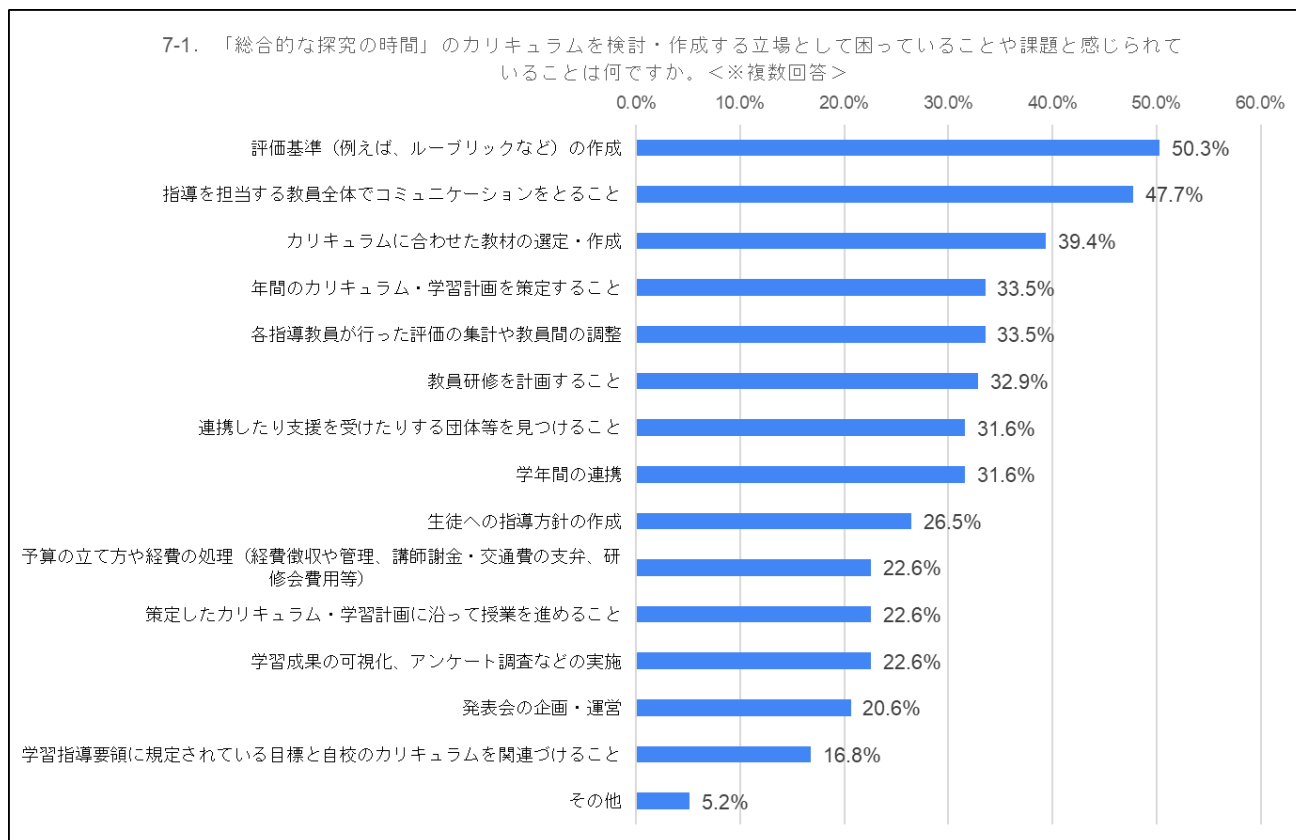


6-5. 「総合的な探究の時間」の成果を活用して、生徒が外部コンテストに応募することを積極的に推奨していますか。



7. 「総合的な探究の時間」について現在抱えている問題に関する質問

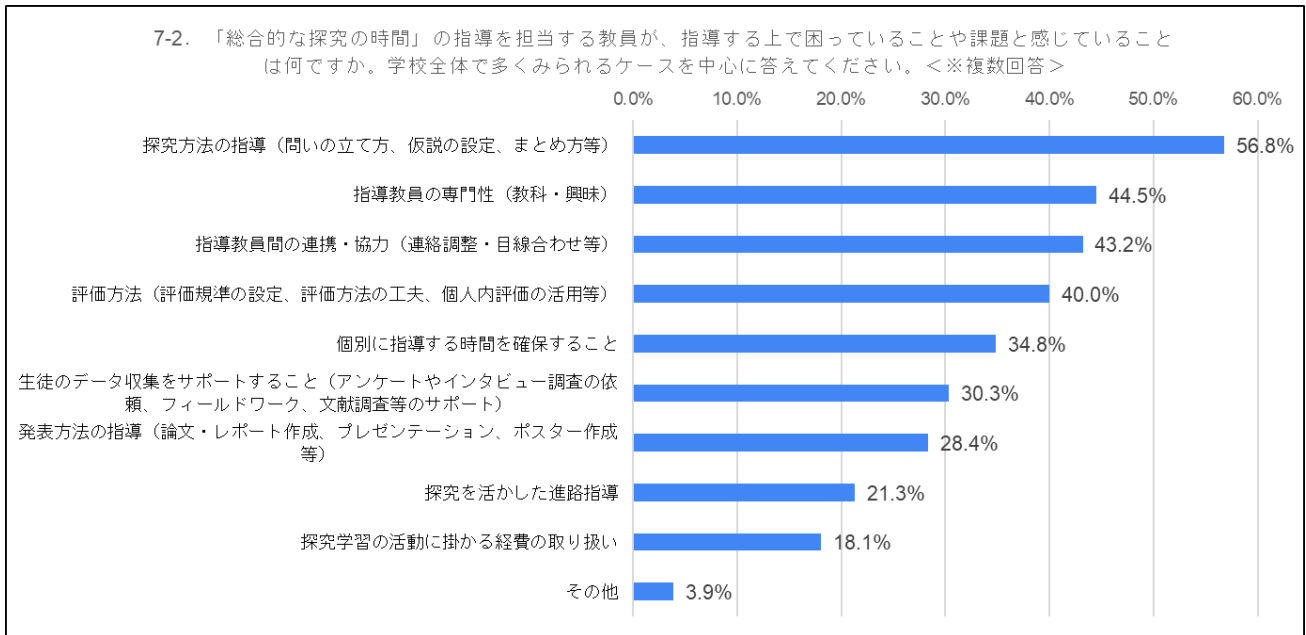
7-1. 「総合的な探究の時間」のカリキュラムを検討・作成する立場として困っていることや課題と感じられていることは何ですか。〈※複数回答〉



【その他】

- ・ 全職員の理解と協力
- ・ ゼミへの取組や方針に対して則っていただけない先生がまだ少数いる。
- ・ 若手教員の育成
- ・ 研究倫理観の共通認識
- ・ 通信ならではの協働方法（デジタル共有方法）
- ・ 業務の精選
- ・ 困っていない
- ・ 課題研究代替のため、特にはないです。

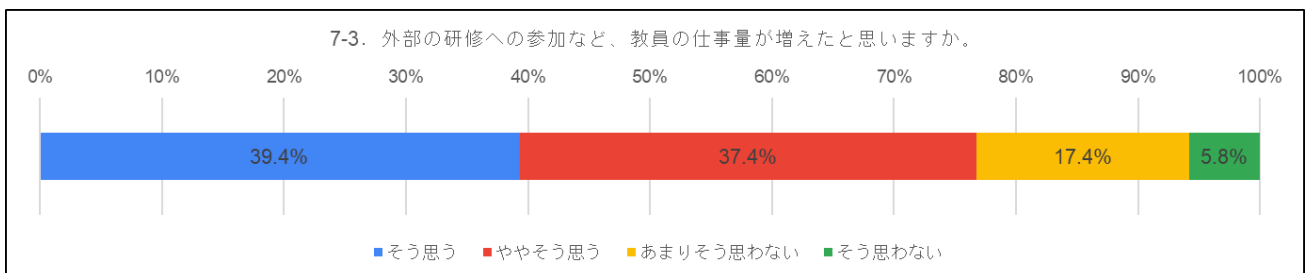
7-2. 「総合的な探究の時間」の指導を担当する教員が、指導する上で困っていることや課題と感じていることは何ですか。学校全体で多くみられるケースを中心に答えてください。＜※複数回答＞



【その他】

- ・ 知識・技能の習得
- ・ 小中学校で不登校を経験した生徒が多く在籍しており、生徒に求められるレベルが高くないなかで、深まりのある探究へと生徒をどう導いたらよいか悩んでいる。
- ・ 産休・育休代替が臨時的任用職員ではなく非常勤講師を充てることになった場合、非常勤時間数が配当されないこと。
- ・ 特になし（3件）

7-3. 外部の研修への参加など、教員の仕事量が増えたと思いますか。



7-4. その他、「総合的な探究の時間」の運営に関わる悩みを具体的に教えてください。

【自由記述・まとめ】

◎生徒に関連する課題

- ・ 探究的な力が社会で必要とされているが、生徒への実感があまりなく、生徒の探究の授業における高いモチベーションの維持が難しい
- ・ 生徒自身が「自分ごと」としてとらえられるようにする活動をどのように具現化するか

- ・ 生徒が主体的に授業へ取り組むようにさせることが、一番の課題
- ・ 生徒により取組の熱量に大きく差があり、それを埋めること

◎教員に関連する課題、教員の負担

- ・ 独自のものを創造するのがとにかく大変
- ・ 自由度が高すぎて教員の能力による授業格差が大きすぎる
- ・ 教員間での意識の差が大きく、ベテランでも経験が乏しい教員もいる
- ・ 教員間の「総合的な探究の時間」に対する認識の違い
- ・ 「総合的な探究の時間」の指導に苦手意識のある教員が少なからずいる
- ・ 外部との連携することもまた教員の仕事を増やし、負担増になるため、積極的な連携は避けている現状がある
- ・ 担当教科とあわせて準備することが大変負担である
- ・ 教員側も教科指導とは異なり慣れない内容の指導を行わなければならないので、負担を感じる教員が多く感じる
- ・ 一人の教員が受け持つ、生徒数が多く、一人ひとりの探究に寄り添う時間を授業内だけではなく、授業時間外でも行うことになり、負担は多くなっている
- ・ 大学研究室との接続を行ったり、外部コンテスト等参加する個々の生徒にきめ細かく指導を行おうとすると、教員の担当人数が不足する
- ・ 校内調整や運営組織の調整が必要
- ・ 職員室が無いため、教科（フィールド）を越えての情報共有が難しい
- ・ 教職員の入れ替わり等により、3年間を見通した運営を行っていくことが難しい

◎カリキュラムと評価

- ・ カリキュラム・マネジメントの中核に総合的な探究の時間を位置づけることに関して、どのようにしたらいいのか具体例があると良い。
- ・ カリキュラムの策定・授業案の作成・授業の準備・授業の実施の分担がうまくいかない
- ・ 評価基準の作成等に、改善の余地がある

◎外部連携と予算

- ・ 探究で生徒一人ひとりに問いを設定させると、その問いが抱える専門性は多岐に亘り、他機関との連携が難しい
- ・ 外部との連携や発表会等への参加など、現状の制度では事前に調整しなければいけないことが多く、あきらめることが多い
- ・ 運営に関わる予算をもう少し多く取れると、より充実した内容の探究が実施できると思われる
- ・ 「総合的な探究の時間」は教科なので、他教科同様、教科会における経費が必要

【調査票】

「総合的な探究の時間」に関する状況調査

【回答に当たっての留意事項】

○教員個人としての考えではなく、学校全体の状況として設間にお答えください。

○複数学科の併置校につきましては、対象となる学科を任意で1つ選んでいただき、お答えください。

○課題研究等の履修をもって、「総合的な探究の時間」の履修に替えている学校は、質問の「総合的な探究の時間」を該当する教科・科目と読み替えて回答してください。また、学年・年次が進行する過程で、「総合的な探究の時間」を課題研究等に替えて履修する学校は、複数年履修する教科・科目の内容をもとに回答してください。

※課題研究等...課題研究、看護臨地実習、介護総合演習、理数探究基礎または理数探究、SSHに係る学校設定教科・科目 等

1. 調査回答者、学校の属性に関する項目

1-1. 貴校の学校名 [自由記述]

1-2. 貴校の課程 ①全日制 ②定時制 ③通信制

1-3. 貴校の学科 ①普通科 ②専門学科 ③総合学科 ④その他 [自由記述]

1-4. 貴校の進路状況 (※もっとも近いものを1つ教えてください。)

- ① ほとんどの生徒が大学に進学する (大学進学率 70%以上)
- ② 半分程度の生徒は大学に進学するが (大学進学率 40%以上 70%未満)、短大や専門学校への進学や就職をする生徒もいる
- ③ 多くの生徒が就職するか、短大や専門学校へ進学する
- ④ その他 [自由記述]

2. 「総合的な探究の時間」を推進する校内体制・組織に関する質問

2-1. 「総合的な探究の時間」のカリキュラム内容の検討をどのような組織・体制で行っていますか。

- ① 学年
- ② 学習支援系のグループ
- ③ 進路支援系のグループ
- ④ 「総合的な探究の時間」に関するプロジェクト・チーム
- ⑤ 専門学科・教科等
- ⑥ その他 [自由記述]

2-2. 「総合的な探究の時間」の授業をどのように担当していますか。

- ① 学年が中心となって担当し、担任のみが担当する
- ② 学年が中心となって担当し、担任・副担任等、学年団で担当する
- ③ 専門学科・教科等が中心となって担当し、該当する教科等の特定の教員で担当する
- ④ 専門学科・教科等が中心となって担当し、該当する教科等の教員全員で担当する

- ⑤ 学年・教科関係なく教員全員で担当する
- ⑥ 学年・教科関係なく必要な人数の教員で担当する
- ⑦ その他〔自由記述〕

2-3. 「総合的な探究の時間」を担当する教員向けの研修を実施していますか。

- ① 年間計画の中で、1年間に数回実施している
- ② 年間計画の中で、1年間に1回実施している
- ③ 計画はないが、1年間に1回程度実施している
- ④ 今後の実施を計画しているが、まだ実施できていない
- ⑤ 今後も実施の計画はない
- ⑥ その他〔自由記述〕

2-4. 「総合的な探究の時間」での生徒の取組状況や学習成果、課題等について報告する会や、教員間で共有するための機会はありますか。

- ①よくある
- ②ときどきある
- ③あまりない
- ④まったくない

3. 「総合的な探究の時間」を推進するための外部との連携に関する質問

3-1. 「総合的な探究の時間」の実施にあたって、連携したり支援を受けたりしたことのある団体等について教えてください。〈※複数回答〉

- ① 大学、大学院、その他高等教育機関
- ② 他の高等学校・中等教育学校
- ③ 近隣の小学校
- ④ 近隣の中学校
- ⑤ 近隣の特別支援学校
- ⑥ 近隣の幼稚園等
- ⑦ 近隣のその他の学校
- ⑧ 行政機関（国の省庁や県）
- ⑨ 行政機関（市町村）
- ⑩ 教育委員会
- ⑪ 民間企業
- ⑫ 民間団体や NPO 等
- ⑬ 国際機関、国際協力機関（国連、JICA 等）
- ⑭ 個人
- ⑮ その他〔自由記述〕

3-2. 上記の質問で上げた団体等との連携や受けた支援の内容について具体的に教えてください。

〔自由記述〕

3-3. 連携したり支援を受けたりする団体に期待することについて教えてください。

(1)学習計画の作成段階から参画して欲しい

- ① そう思う
- ② ややそう思う
- ③ あまりそう思わない
- ④ そう思わない

(2)教材等を提供して欲しい

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

(3)カリキュラムをカスタマイズして提供して欲しい

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

(4)教員への研修を行って欲しい

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

(5)自校に出向いて生徒に直接指導して欲しい

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

(6)校内では体験できないような機会を多く与えて欲しい

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

4. 「総合的な探究の時間」のカリキュラム・評価に関する質問

4-1. 「総合的な探究の時間」をカリキュラム・マネジメントの中核に位置づけることについて、貴校の状況や考えを教えてください。

- ① 「総合的な探究の時間」を既にカリキュラムの中核に位置づけている
② 次年度以降、カリキュラムの中核に位置づけようと考えている
③ 中核に位置づけたいがどうしてよいかわからない
④ その他〔自由記述〕

4-2. 「総合的な探究の時間」において、各教科と連携した授業を実施できていると思いますか。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

4-3. 上の質問（4-2）で①と②を選択した場合、その内容について具体的に書いてください。

〔自由記述〕

4-4. 「総合的な探究の時間」の取組をどのような方法で評価していますか。〈※複数回答〉

- ① プレゼンテーションやポスター発表、総合芸術などの表現による評価
② 討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価
③ 学習や活動の状況などの観察記録による評価
④ 論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物、それらを計画的に集積したポートフォリオによる評価
⑤ 課題設定や課題解決能力をみるような記述テストの結果による評価
⑥ 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価
⑦ 保護者や地域社会の人々等による第三者評価
⑧ その他〔自由記述〕

4-5. 「総合的な探究の時間」の成果物を評価するにあたって、ルーブリックをどのように用意していますか。

- ① 学校としての汎用的なルーブリックを用意している
② 担当教員がその都度成果物ごとに統一したルーブリックを用意している
③ 教員各自が個別にルーブリックを用意している
④ ルーブリックを用意していない

注；選択肢①の「汎用的なルーブリック」とは生徒の資質・能力を評価するために、学年や教科を問わず共通して用いるルーブリックを指します。

4-6. 「総合的な探究の時間」の成果物の評価について課題があると思いますか。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

4-7. 上の質問（4-6）で①と②を選択した場合、その課題について具体的に書いてください。

〔自由記述〕

4-8. 「総合的な探究の時間」の評価を学校教育目標やスクールポリシーと関連付けて行っていますか。

- ① 関連付けて評価できている
② 関連付けはできているが、評価が十分にできていない
③ 関連付けができておらず、現在検討している
④ 関連付けて実施できておらず、検討もできていない

4-9. 自校の「総合的な探究の時間」の評価や学習成果等に関するデータを収集し、学校教育目標やスクールポリシーに照らして分析していますか

- ① データを収集し、分析している
② データを収集しているが、分析はできていない
③ データを収集できておらず、今後収集したいと考えている
④ データを収集できておらず、今後も収集する予定はない

4-10. 「総合的な探究の時間」のカリキュラムは、学年間で関連がありますか。

- ① 3年間を見通してカリキュラムが策定されており、学年間で関連付けがなされている
② 3年間のカリキュラムは策定されているが、学年間の関連付けはなされていない
③ 3年間のカリキュラムが策定されておらず、1年ごとにカリキュラムが策定されている
④ 1年ごとのカリキュラムも策定できていない

5. 「総合的な探究の時間」における生徒の変化や取組状況に関する質問

5-1. 「総合的な探究の時間」に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。

(1)各教科等の学習にもつながる知識・技能が向上した

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

(2) 各教科等の学習にもつながる思考力・判断力・表現力が向上した

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

(3) 各教科等の学習にもつながる学びに向かう力が向上した

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

5-2. 「総合的な探究の時間」における生徒の取組状況について、お答えください。

(1)生徒たちは自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしていると思いますか。（主体性）

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

(2)生徒たちは自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしていると思いますか。（協働性）

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

(3)生徒たちは進んで社会・実生活の問題の解決に取り組むとともに、積極的に地域の活動に参加しようとしていると思いますか。(社会参画への関心・意欲)

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

5-3. 「総合的な探究の時間」を通して、特に生徒が身に付けたと感じる資質・能力について教えてください。

[自田記述]

6. 「総合的な探究の時間」と進路指導・キャリア教育との連携に関する質問

6-1. 「総合的な探究の時間」の活動とキャリア教育をつなげて実施できていると思いますか。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

6-2. 「総合的な探究の時間」の活動は、生徒の進路実現にどのようにつながるとお考えですか。<※複数回答>

- ① 前向きな進路選択の態度の醸成につながる
② 志望校・希望企業や志望分野・希望業種選びにつながる
③ 総合型選抜等、入学者選抜に活用できる
④ 就職試験に活用できる
⑤ 地域や社会への興味・関心が高まる
⑥ 自己の生き方・在り方につながる
⑦ 生徒の進路実現につながるとは思わない
⑧ その他 [自由記述]

6-3. 「総合的な探究の時間」の取組により推薦入試や総合選抜を用いた大学受験への指導が実施しやすくなったと思いますか。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

6-4. 「総合的な探究の時間」の取組により就職試験の指導が実施しやすくなったと思いますか。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

6-5. 「総合的な探究の時間」の成果を活用して、生徒が外部コンテストに応募することを積極的に推奨していますか。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

7. 「総合的な探究の時間」について現在抱えている問題に関する質問

7-1. 「総合的な探究の時間」のカリキュラムを検討・作成する立場として困っていることや課題と感じられていることは何ですか。<※複数回答>

- ① 評価基準(例えば、ルーブリックなど)の作成
② 各指導教員が行った評価の集計や教員間の調整
③ 生徒への指導方針の作成
④ 指導を担当する教員全体でコミュニケーションをとること
⑤ 学年間の連携
⑥ 学習指導要領に規定されている目標と自校のカリキュラムを関連づけること

- ⑦ 年間のカリキュラム・学習計画を策定すること
- ⑧ 策定したカリキュラム・学習計画に沿って授業を進めること
- ⑨ カリキュラムに合わせた教材の選定・作成
- ⑩ 連携したり支援を受けたりする団体等を見つけること
- ⑪ 予算の立て方や経費の処理（経費徴収や管理、講師謝金・交通費の支弁、研修会費用等）
- ⑫ 教員研修を計画すること
- ⑬ 発表会の企画・運営
- ⑭ 学習成果の可視化、アンケート調査などの実施
- ⑮ その他〔自由記述〕

7-2. 「総合的な探究の時間」の指導を担当する教員が、指導する上で困っていることや課題と感じていることは何ですか。学校全体で多くみられるケースを中心に答えてください。〈※複数回答〉

- ① 探究方法の指導（問いの立て方、仮説の設定、まとめ方等）
- ② 指導教員の専門性（教科・興味）
- ③ 指導教員間の連携・協力（連絡調整・目線合わせ等）
- ④ 評価方法（評価規準の設定、評価方法の工夫、個人内評価の活用等）
- ⑤ 個別に指導する時間を確保すること
- ⑥ 探究学習の活動に掛かる経費の取り扱い
- ⑦ 生徒のデータ収集をサポートすること（アンケートやインタビュー調査の依頼、フィールドワーク、文献調査等のサポート）
- ⑧ 発表方法の指導（論文・レポート作成、プレゼンテーション、ポスター作成等）
- ⑨ 探究を活かした進路指導
- ⑩ その他〔自由記述〕

7-3. 外部の研修への参加など、教員の仕事量が増えたと思いますか。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

7-4. その他、「総合的な探究の時間」の運営に関わる悩みを具体的に教えてください。

〔自由記述〕